
私の故郷のHealth Literacyを考える

中村美香(看護管理学)



動機

- ▶ 私の故郷における医療について、頭の片隅では気になっていた。
- ▶ 授業で「Health Literacy」の考えを知った。
- ▶ 一度、改めて考えてみたいと思った。

いい機会だ！
家族とも話してみよう！



目的

- ▶ 私の故郷（愛媛県内子町大瀬地区）の医療の現状や、生活・健康について情報を集める。
- ▶ 集まった情報を参考に、Health Literacyを考え



故郷の紹介



故郷の紹介 1.

▶ 地理

愛媛県のほぼ中央、松山市から約40キロ南西に位置
2005（平成17）年1月1日に、旧内子町、旧五十崎町、
旧小田町の3町が合併 [Google map](#)

▶ 人口

19,040人

世帯数

7.391人

（2010年4月）

（[内子町公式ホームページ](#)より）



年齢階級別人口（2005年、国勢調査HPより）

384224 喜多郡内子町

人数(人)

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

総数

0-4

5-9

10-14

15-19

20-24

25-29

30-34

35-39

40-44

45-49

50-54

55-59

60-64

65-69

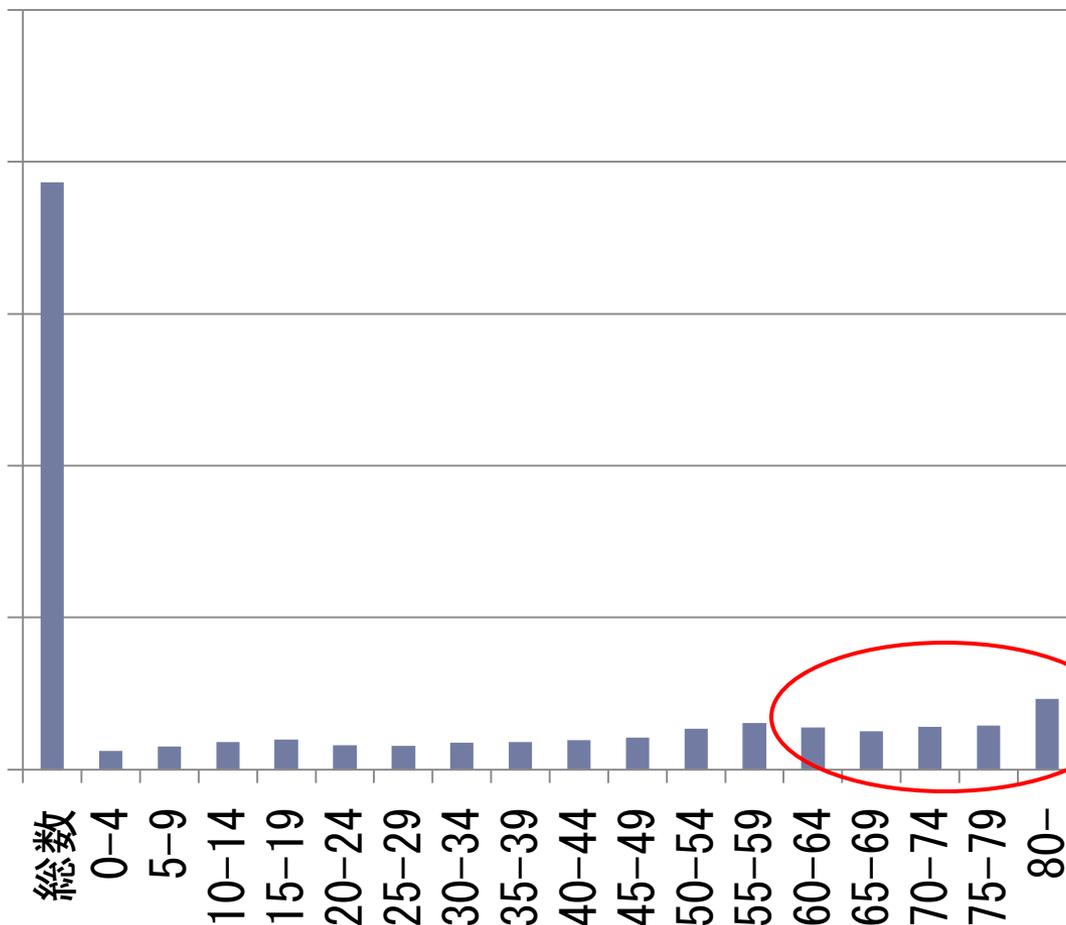
70-74

75-79

80-

■ 384224 喜多郡
内子町

年齢(歳)



人口の推移

項目	昭和60年	平成17年
人口合計	24,079人	19,620人
年少人口（0～14歳）	5,010人	2,576人
生産年齢人口（15～64歳）	15,061人	10,575人
高齢人口（65歳以上）	4,007人	6,467人
高齢化率（高齢／総人口）	16.6%	33.0%
世帯数	7,016世帯	7,017世帯

- ▶ 人口は減少傾向、高齢化傾向にある。
- ▶ 少子高齢化は今後も進むと見込まれる。

（内子町公式HPに掲載の、第2期内子町障害福祉計画資料をもとに作成）

故郷の紹介 2 .

▶ 産業

産業別就業者数

第一次産業の主は農林業。

第二次産業では建設業関係が主体。

藩政期(1600年頃～)には木蠟、和紙等の生産で栄え、白壁の町並みが残っている。これらを生かした観光産業の取組みも進んでいる。

▶ 内子町公式ホームページ

<http://www.town.uchiko.ehime.jp/>



故郷の紹介 3.

▶ 医療

● 救急病院・当直医

救急時・入院時には、隣接市(大洲市)あるいは松山市を始めとした病院まで搬送する必要がある。

救急指定病院・当直体制は整っている。

● 診療所がある。

例：古川医院分院大瀬診療所(定期的に医師が駐在)

大瀬地区の風景①、②

済生会小田診療所(外来、10床の入院環境)

▶ 参考：愛媛県医師確保対策ホームページ

町長 稲本氏の辞令挨拶(平成22年4月)より

さて、職員の皆さん方のお陰で大きな事業が具現化してきました。

私の公約であります病院の問題につきましては、私が何回も申し上げておりますので、皆さん方お分かりのことだと思いますが、加戸病院さんが内子町へ移転しましょうということで話がまとまりました。また、移転先である地権者の皆さん方の理解もいただきました。内子の廿日市地区、ちょうどJR内子駅を出て右側に用地を確保することに目途がつかしました。これから農地の転用、大規模開発への申請、県との協議等々がはじまります。…(次頁)

内子町公式ホームページより抜粋



この事業は22年度中には着工しなければなりませんので、今年末か、来年の初めころには、着工になるのではないかと考えております。しかし、着工しても開業までにはまだまだかかります。大洲市にある加戸病院がそっくり移転する規模となりますので時間が必要かと思っておりますが、職員の皆さん方も新しい救急病院の基地ができるということでご協力をいただきたいと思いますと思っております。



問題は深刻！
でも、具体的な活動も
行われている！



そしてもう一つは、先日愛媛大学の柳沢学長と協定書に署名をした済生会小田診療所のことです。今まで今野院長先生一人で外来やベット数10床の入院患者、特老や老健施設などに入所されている方々を診ていただいておりますが、限界があるということで内子町と愛媛大学とが連携して愛大が、内子町民の健康を守っていく、成人病を中心に調査をしたり、研究、そして対応していく、その一環として済生会小田診療所にお医者さんを派遣するという事でまとまりました。町民の福祉や健康増進など色々な分野で小田診療所の先生方をいい意味で使っていきたいと思っております。 …(次頁)



そういう意味では小田地域で診療所までの交通機関をどう確保していけばいいのか、これから本格的に考えていかなければなりません。南山ですとか、参川の奥の上川、あるいは臼杵からおじいちゃん、おばあちゃんたちがどういう形で小田診療所に来ていただくようなシステムを組んでいくか、真剣に考えていきたい。そして地域の皆さん方と行政と診療所が愛大の医学部と一緒になって小田の診療所を守っていく、育てていく、そして加戸病院や町内の開業医の皆さん方と協力しながら、みんなが町民の命を守っていく、そのようなシステム作っていかねばならないと思っております。職員の皆さん方の力をぜひお貸しいただきたいと思っております。

医療体制の現状

- ▶ 現在は入院できる病院がないが、隣接市の病院が移転することが決定。(22年度中に着工)
- ▶ 診療所もあるが、マンパワーの側面からも限界であることが分かる。
- ▶ 大学との連携が始まっている。
連携の内容は、成人病を中心に調査、研究し対応。
その一環に、診療所に医師を派遣。
- ▶ 住民の、病院や診療所への交通機関の確保が問題となっている。



町長 稲本氏の辞令挨拶(平成22年4月)より

それからもう一つが限界集落の問題です。市街地を囲むように153の行政区のうち26の行政区が、言葉は適切な言葉ではありませんが、限界集落といわれている地区があります。これが年々拡大をしております。そこに住んでおられるおじいちゃん、おばあちゃんたちは福祉の問題だけでなくって農地の問題、家の修繕、お医者さんに行く交通手段の確保など諸問題を抱えておられます。しかし、そういったところにお住まいの方々は長い歴史の中でこの内子町を、その地域を頑張って引っ張ってこられた方たちばかりです。色々な苦勞をされておられます。また、私たちにはないたくさんの経験もされておられます。

内子町公式ホームページより抜粋

その人たちが人生の後半をその地域で過ごしておられますが、人生の老い方を私たちがどうサポートしていけばいいのか。何もその地域で新しいハードのものを造ろうというものではありません。それは心の問題、どういうふうにすればいい人生だったなあ、ここに住んで良かったなあという思いをもって生きていくか、私はこれが限界集落への対応で一番大切にしなければならないことだと思っています。だから、教育委員会教育課自治・学習班の中に対応する事務局を置かせていただきました。もちろん教育課だけで対応できる問題ではありません。福祉の問題、交通手段の問題など色々な部署との連携が必要となりますので、各課を横断的に対応していきたいと思っています。





「人生の老い方を私たちがどうサポートしていけばいいのか。何もその地域で新しいハードのものを造ろうというものでありません。それは心の問題、どういうふうにすればいい人生だったなあ、ここに住んで良かったなあという思いをもって生きていくか……」

そのとおりだなあ



限界集落とは？

名称	定義	内容
存続集落	55歳未満人口比 50%以上	跡継ぎが確保されており、共同体の機能を次世代に受け継いで行ける状態
準限界集落	55歳以上人口比 50%以上	現在は共同体の機能を維持しているが跡継ぎの確保が難しくなっており、限界集落の予備軍となっている状態
限界集落	65歳以上人口比 50%以上	高齢化が進み、共同体の機能維持が限界に達している状態
消滅集落	人口0	かつて住民が存在したが完全に無住の地となり、文字通り集落が消滅した状態

Wikipediaよ
り

限界集落の実態調査 (Wikipediaより)

- ▶ 旧国土庁が1999年に調査を実施。
やがて消え去る集落の数は日本全体で約2,000集落以上であるという結果であった。
 - 農林水産省(2006年3月)
「限界集落における集落機能の実態等に関する調査」
 - ▶ 「無住化危惧集落」という概念で整理し、その数は日本全国で1403集落と推定。
この調査は世界農林業センサスに基づく農業集落を対象。
世界農林業センサス(Census of Agriculture and Forestry)
= 国際連合食糧農業機関(FAO)の提唱により、世界各国で実施されている農業・林業に関する調査
農業集落 = 農業を営む農家を中心とした村落構造の一種
-

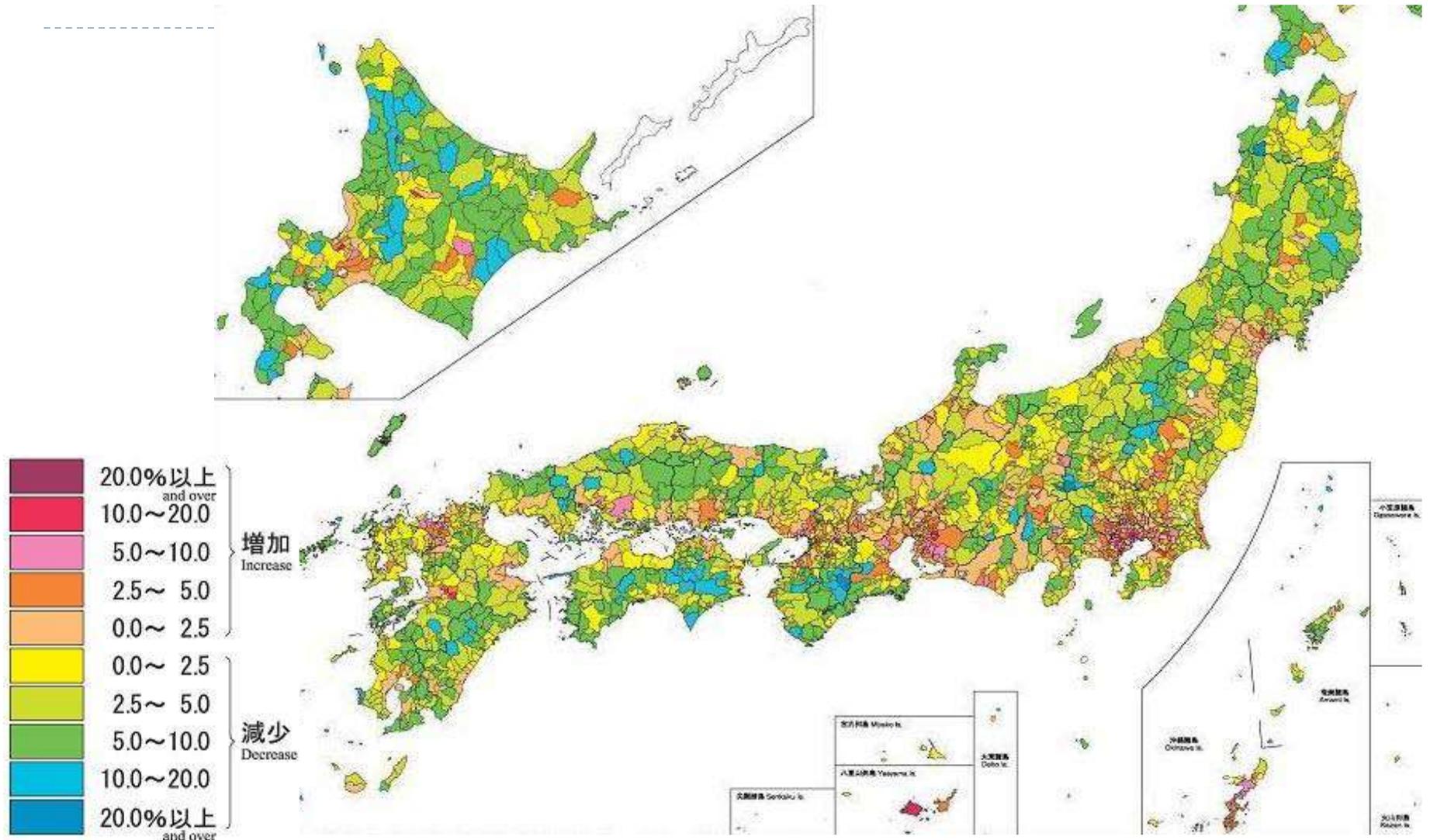
● 国土交通省(2006年)

- ▶ 「過疎地域等における集落の状況に関するアンケート調査」
(調査基準2006年4月、2007年1月中間報告、2008年8月17日最終報告)
- ▶ 過疎地域を抱える全国775市町村に対して、そこに所属する62,271集落の状況をたずねた。
- ▶ 結果は・・・
 - 高齢者(65歳以上)が半数以上を占める集落は7873集落(12.6%)。
 - 機能維持が困難となっている集落は2917集落(4.7%)。
 - 10年以内に消滅の可能性のある集落は422集落。
 - 「いずれ消滅」する可能性のある集落は2219集落。
 - 「10年以内」と「いずれ」を合わせた数2641集落は、1999年の調査と比較して284増加している。

集落 = 一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地域単位であり、市町村行政において扱う行政区の基本単位

▶ のこと

人口の推移 市区町村別人口増減率(平成12～17年)



限界集落をテーマにした研究論文

▶ CiNiiで「限界集落」で検索すると・・・153件のhitあり。

▶ 例1) 瀬戸内過疎地域の高齢者生活と他出家族

— 広島県過疎山村の調査事例より —

石坂督規. 人文論叢(三重大学)第19号. 2002

目的:「残留高齢者」と「他出家族」との交流実態を明らかにすることで、今日の「過疎問題」を、過疎地域と都市圏域との関連の中で改めて捉えなおす。

▶ 例2) 人的繋がりにから見た首都圏近郊山村の現状と展望

— 埼玉県大滝村を事例に —

立花敏 他. 林業経済研究 Vol.44 No.2(1998)

目的:アンケート調査により、人的繋がりにからみた山村生活の実態を明らかにすると共に、過疎・高齢化の進む山村に望まれる施策を検討する。



私の故郷の問題は、
故郷のみの問題にあらずと
いうことか・・・

近所に住む、Aおばあちゃん

- ▶ 80代前半
- ▶ ひとり暮らし
- ▶ 月に一度診療所に行き、診察と高血圧の薬を処方してもらっている



畑で野菜を育てている。
漬物お餅や饅頭も作って、
おすそ分けしてくれる。



Mおばあちゃん

- ▶ 80代前半
- ▶ 両目が見えないけれど、ひとり暮らし
- ▶ 近所に家があり、声をかけてくれる人がいる
- ▶ 月に一度娘と病院に行き、診察を受け薬を処方してもらっている
- ▶ 畑に行ったり、山に行ったり・・・

畑で野菜を育てている。
草ひきが上手。ラジオをきいて
過ごすことが多い。
夜19時には就寝。
毎日梅干し、朝は味噌汁！



結論：Health Literacyを考える

家族の意見

▶ 医療について

地域として、共通した医療情報を提供できる機関はないのか？診察をする側にもされる側にも共通に提供されるような……。そういうのがあれば病院もすぐに紹介先を判断できるし、医療を受ける側にとっても良いと思う。

→ 情報を欲しいと思う時に、相談できる環境

「すべての人がパソコンを持っていなくても良い。

その情報を提供する人がいれば良い。」

（中山和弘先生のお言葉）

-
- ▶ 情報を提供する人は、家族であったり医療機関であったり…。
 - ▶ 情報を必要としたときにすぐに援助を受けられる環境
= コミュニケーションが充分にある環境

簡単そうで難しいこと

でも難しそうで、簡単なことかもしれない。

まず自分にできることをしよう！

意識して家族とコミュニケーションとる

近所の人をもっと大切にする



大切だと感じたこと

「生きるということはセルフケアすることということ」

鷲田清一「倫理」学内講演会での言葉より(2006年)

- ▶ その人その人が、それぞれにセルフケアし続けられる環境を維持できるように関わるのが大切だと感じた。





おわり

